

今週の始めに、卒業式の会場づくりをしました。体育館が式場になると、今年度も本当にあと少しだと実感したことでした。学習のまとめや評価等でこれからますます忙しくなると思いますので、どうか体調崩さないように・・・。最後まで「チーム中村」、みんなでやり抜きましょう。今回は5年2組の授業の紹介です。

単元名：「ぐっとくる作品・わたしはこう読みます」

H31・2・21 (木)

教材名：「大造じいさんとがん」(東京書籍5年下)

研究授業：5年2組 秋田 喜俊 教諭

身に付けさせたい資質・能力

【知・技】文中で語句の係わり方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解する。

【思・判・表】登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

【学びに向かう力】進んで椋嶋十の残した作品を読もうとする。

事後研より

- 本時までの板書を残し、それを本時に生かすことができていた。「どのように変わったか」は、前時に学習している。そこを確認しておくことで、「どこで」にもっと着目できたと思う。
- 対話している様子を見ると、「それって何ページ？」と確認し合ったり「ぼくのつながってる」と自分の意見と比較したりして聞き合う姿が見られた。
- この教材は、以前からある文学作品である。単元名が「わたしはこう読みます」であるが、何のためにこの学習をしていくのか、どんな力を付けていくのかを意識させる1時間目がとても大事である。
- 意見の対立をさせないようにしていたが、深まりのためには言い合うことも大事。思い切り自分の意見が言える土壌を培う学級経営が大切である。
- 予習で短冊に書いてくるところまでさせることで、思考・判断する時間ももっと増える。付けたい力に結びつくところに時間が取れるように工夫したい。
- 児童の意見を教師がまとめていた。児童が自分達でまとめることで深まり、力が付く。グループの交流の時間をもっと短くし、話し合いの質を高めることが大事。メモをとることで思考しにくい児童もいるが、メモを取りながら交流することに慣れさせていく。児童に要求することで、高まる。要求し続けていくことが大切である。

授業者のリフレクションより

資 今回の学習で身に付けさせたい力は、他の文学教材にも活用できる力であると思う。因果関係を捉えて、叙述からその理由や変化を考え、登場人物の気持ちの変化を考えていく。「心にぐっとくる作品、私はこう読みますシート」にこの物語の心に残ったことを書くことで、次の文学作品教材を学習する際に生かしていけるようにしたかった。

主対深 気持ちが大きく変化したところを考える際に、この言葉、この行動この文章からここだと思うという風に根拠を上げて説明させたかった。そして、友達の説明や意見から「なるほど」「そうか」と納得したり、自分の今までの考えが変化したりそんな見方もあるなという新しい発見がある授業展開を目指した。

言 叙述に着目する際にも、物語を場面ごとに分けて授業するのではなく全体を捉え考えていくことが大切だと今回改めて感じた。場面ごとに振り返る作業は必要だが、全体を通して見えたり分かったりすることが重要なので、これからも物語全体から見ることができたり登場人物の心の変化を考えていける授業にしていきたい。

感 物語文の教材研究や授業をすることでこれまで考えなかったことや気付かなかったことを考えたり気付いたりできたと思う。まだまだ自分の教材研究不足を実感した。もっと叙述や言葉に着目し、こだわられる授業展開を目指していきたい。

秋田先生、公開授業やリフレクションありがとうございました。

学習の流れ

5年生 「大造じいさんとがん」 (全11時間)

心にぐっとくるこの作品 わたしはこう読みます

～「読書座談会」で椋嶋十作品の魅力を語ろう～

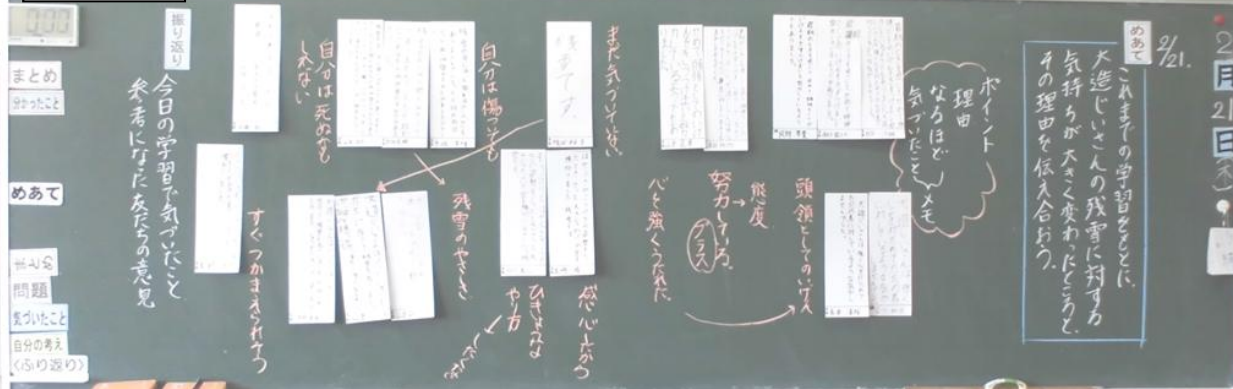
学習の流れ

1. これからの学習の流れを知ろう。全文を通読し、「私はこう読むシート」のまとめ方を知ろう。
2. 「心にぐっとくる」叙述はどこにあるか考えよう。あらまし・人物設定・時・場・出来事・心情の変化
3. 「心にぐっとくる」叙述はどこにあるか考えよう。表裏上の効果
4. 「心にぐっとくる」叙述はどこにあるか考えよう。中心人物の対人物に対する見方
5. ミニ読書座談会をしよう。〈大造じいさんと残雪は、どのように描かれているのだろう〉
6. 自分の選んだ椋嶋十の作品の心にぐっとくる叙述を読み解こう。
- 7.
8. 椋嶋十作品の「読書座談会」をし、自分の考えを広げたり、深めたりしよう。

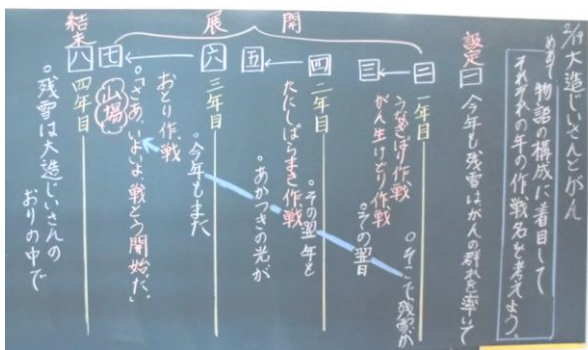
つけたい力

登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力。

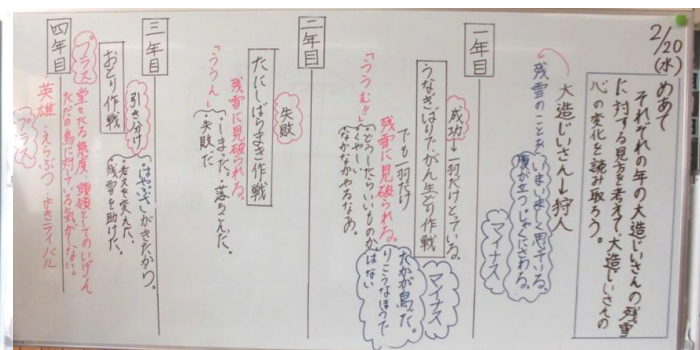
本時の板書



前々時の板書

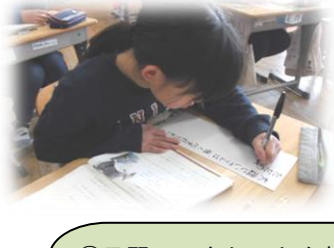


前時の板書



授業の流れ

①授業の導入では、前の時間の板書を使って今までの流れを確認し、残雪に対する大造じいさんのイメージがマイナスからプラスに変わっていることを押さえました。



②予習してきたことを基に「見方が大きく変わったところ」の教材文から抜き出し、短冊に書きました。



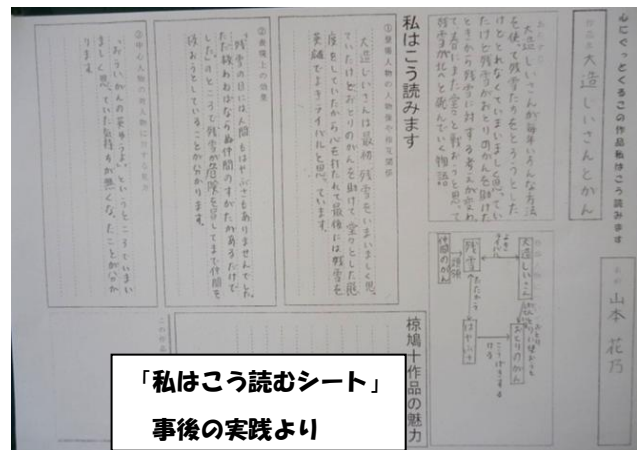
③短冊に書いた文とその理由をグループで見合い、交流です。選んだところとその理由を聞きながら児童はメモも取りました。秋田先生は、グループの対話の様子を見取っています。



④自分の考えを全体に広める時間です。同じ所を選んだものを黒板上でまとめながら児童の考えを板書しています。なぜそこを選んだのか理由を聞くことで、考えに広がりがありました。



⑤振り返り～児童のノートより～ 今日学習で、大造じいさんの残雪に対する気持ちが大きく変化したところは、3年目だということが分かりました。「残雪の目には・・・」のところの花乃...



「私はこう読むシート」 事後の実践より